

第 37 回日本肝胆膵外科学会学術集会 NGP 活動報告①

Chairman's Educational Program 2

Course for Learning Expert Skills 1: Dissection and Lymphadenectomy around SMA in Pancreaticoduodenectomy

司会：佐野 力 先生（愛知医科大学），前川 彩（がん研究会有明病院：NGP-WG メンバー）

演者：① 高橋 秀典 先生（山口大学）② 井上 陽介 先生（がん研究会有明病院）③ 川井 学 先生（和歌山県立医科大学）

Chairman's Educational Program 2「Course for Learning Expert Skills 1: Dissection and Lymphadenectomy around the SMA in Pancreaticoduodenectomy」が開催され、佐野 力先生（愛知医科大学）とともに座長を経験させていただきました。

本セッションは、本学術集会のテーマである“Lead the Next Generation”に沿い、会長の調 憲先生により特別企画として設けられたものです。次世代の肝胆膵外科を担う若手ドクターたちに向け、現時点で到達可能な最高レベルの知識と技術の継承を目的とした意欲的な取り組みでした。結果として非常に実践的かつ有意義な教育セッションとなり、座長を経験させていただいたことと同時に、このような企画を考案いただいたことに感謝申し上げます。

主題は「膵頭十二指腸切除における SMA 周囲郭清」でした。他の多くの領域では手技の定型化が善とされていますが、本テーマにおいては個々の解剖と腫瘍の進展状況に基づいた個別で緻密な戦略と、それを実現するだけの繊細な技術が不可欠であり、進行膵癌の治療に携る医師にとって永遠の課題とも言えます。この難題に対し、3 名のエキスパートの先生方に貴重なご講演をいただきました。

山口大学の高橋 秀典先生からは、化学放射線療法後の SMA 周囲神経叢郭清について、根治性と安全性のバランスの両立という視点を中心に、術中迅速診断の活用や高度な divestment 技術をご講義いただきました。がん研究会有明病院の井上 陽介先生からは、開腹およびロボット支援下でのアプローチの違いや、視野展開と牽引操作の工夫について、実際の症例をもとに丁寧にご解説いただきました。和歌山医科大学の川井 学先生からは、腫瘍の位置に応じて選択される 3 つの異なるアプローチ戦略について、その合理性と洗練された手技をご紹介いただきました。

いずれのご講演も単なる手技の紹介や提示にとどまらない、術者としての思考の組み立て方や、背景となる理論、そして経験に裏打ちされた独自の工夫が込められており、まさに膵臓外科の奥義に迫る素晴らしい会であったと思います。術前治療の影響や腫瘍位置・浸潤に応じた適切な郭清範囲の見極めなど、臨床判断に必要な洞察過程も具体的に示していた

だき、私を含む若手外科医にとって今後の実践に直結する非常に充実した時間となりました。3名の演者の先生方には、改めて心より御礼申し上げます。

最後に、拙い司会であったにもかかわらず、終始温かく導いてくださった佐野先生、そしてこの素晴らしいセッションを企画し、大役を託してくださった調会長に、心より深く感謝申し上げます。

(文責：前川 彩)